**１）はじめに**

本マニュアルは、平成27年度から小児科学会が主催する「小児在宅医療実技講習会」と各都道府県が開催していく「小児在宅医療実技講習会」の標準的教育内容を示すもので、講習会の質を担保するために作成されたものである。

　本講習会は医師が対象であり、平成26年12月まで7回開催された小児在宅医療実技講習会に準じて、「講義」と「医療的ケア人形を使用しての実技講習」から構成される。

講義については、基本的には、第1回から7回の小児在宅医療実技講習会の講義から、分野ごとに1講義、担当した講師に執筆を依頼した。忙しい中、執筆をしていただいた、諸先生方に篤く御礼申し上げる。

今後、内容に適時変更を加えていく予定である。本マニュアルに関して意見があれば、日本小児科学会事務局**（アドレス：　jps-q@mirror.ocn.ne.jp　）**まで連絡をいただきたい。ただし、基本的には、個別に回答できないことをご了承いただきたい。

　なお、本マニュアル中では、「しょうがい」という単語について、「障害」「障がい」「障碍」の3通りで表記されている。本マニュアルの基本方針として、固有名詞、法律、書籍名などはそのまま「障害」「障がい」を使用し。それ以外は著者の判断に任せ、統一しないこととした。

**２）利用の仕方**

・講義はPDFだけではなくパワーポイント資料も提供する。講義の内容は標準的教育内容を示したものである。

・実技講習については、今までの7回の講習会の経験から、より具体的な実技指導を記載した標準的な指導マニュアルを作成した。

・考え方や手技などは、標準的な内容であるので、そのままで講習していただいて構わない。ただし、見解が統一されていない内容も含み、他の考え方や手技を否定するものではない。各都道府県において、本マニュアルを参考にして関係者で協議し、地域の実情に合わせた内容とするように工夫を加えて、講義と実技講習を実施していただきたい。

・また、講習会のイメージがもてるように、第4回と第7回小児在宅医療実技講習会の呼吸リハビリテーションと排痰補助装置の実技指導の様子を撮影した動画も加えた。

・在宅医療の現場の医師に必要なリスク管理を意識した内容にしたが、基本方針として、「広く浅く、しかし見過ごしてはいけないポイントはしっかり覚えて帰っていただく」という方針で編集した。

**３）利用条件**

・本マニュアルは、日本小児科学会が作成した講義資料等を無償にて提供しようとするものである。

・本マニュアルの内容は、特に個別の条件がつけられているものを除いて、以下の3項目の条件を遵守していただける限り利用は自由であり、小児科学会ならびに著者に許諾を得る必要はない。

①著作権の帰属とその表記についてのルールを守ること

本マニュアルの著作権は日本小児科学会に帰属する。本マニュアルそのまま、あるいは改変を行った上で頒布・公開する場合には、当該資料は小児科学会の資料（あるいは、それを改変を加えたもの）であり、元の資料の著作権は小児科学会に帰属するものであることを明示する必要がある。

★スライドまたは頒布資料のどこかに「日本小児医療保健協議会小児在宅医療実技講習会マニュアルより」と表記して下さい。

②非営利・非商用利用であること

本マニュアルの内容については、商業目的での利用にあたっては日本小児科学会の許諾が必要となる。出版物等に利用される場合は、日本小児科学会事務局までご連絡ください。

③頒布にあたっては、日本小児科学会と同じ条件で行うこと

本マニュアルの内容やそれを改変や翻訳、翻案したものを利用者が頒布する場合には、本項を含む①②③と同一の条件のもと、利用を自由とするようにしてください。

**４）ホームページ掲載**

日本小児科学会ホームページ　＞会員専用ページ　＞　各種医療関係情報

＞　2017年　＞　小児在宅医療実技講習会マニュアル（2016年10月、2017年11月改訂）

**５）参考図書**

　いずれも、日本小児医療保健協議会重症心身障害児(者)・小児在宅委員会の委員、または、小児在宅医療実技講習会の講師が編集に関わっており、重症心身障害児(者)医療、小児在宅医療に関して貴重な情報を得ることができる。

①「医療的ケア研修テキスト（新版）」

日本小児神経学会社会活動委員会　北住映二・杉本健郎（編）

2012　クリエイツかもがわ

②「実践！！小児在宅医療ナビ 地域で支えるみんなで支える」

前田浩利 （編）　2013　南山堂

③「小児在宅医療診療報酬の手引き　第３版」

一般社団法人 大阪小児科医会　2014

・小児在宅医療診療報酬の手引き第３版（補遺版）　2016

一般社団法人 大阪小児科医会　ホーム > 医会刊行物案内

④「重症心身障害児・者診療・看護ケア実践マニュアル」

北住映二・口分田政夫・西藤武美（編）　2014　診断と治療社

⑤「重症心身障害療育マニュアル　改定第3版」

岡田喜篤（監修）、井合瑞江・石井光子・小沢浩・小西徹（編）

2015　　医歯薬出版

**６）フォルダー名一覧**

Ａ．講義

A１．在宅酸素療法

A２．胃瘻

A３．気管切開

A４．在宅人工呼吸器

A５．呼吸リハビリテーション

A６．診療報酬請求

A７．NICUからの在宅医療

A８．当事者支援・レスパイト事業

A９．在宅医療的ニーズ

A10．病院レスパイト

A11．小児在宅医療手技実際

A12．小児科医のための「障害者総合支援法」入門

A13．摂食と嚥下の発達・正常と異常

コラム１．高齢者と小児の違い

コラム２．福祉制度

コラム３．防災対策

コラム４．障害児をみるポイントとコツ

コラム５．小児在宅医療：知ってよかったトップ30

Ｂ．実技指導マニュアル

B１．実習総論

B２．胃瘻ボタン交換

B３．気管カニューレ交換

B４．呼吸リハビリテーション

B５．カフマシン

B６．肺内パーカッションベンチレーター（IPV）

Ｃ．動画

C１：呼吸リハビリテーション実習風景

C2：排痰補助装置実習風景

C3：経鼻胃管挿入.

C4：防災対策

C5：気管カニューレ交換手技

**７）内容と執筆者一覧**

**Ａ．講義　パワーポイントと説明文**

１．在宅酸素療法の実際

 （倉敷中央病院小児科　総合周産期母子医療センター　渡部晋一）

２．胃瘻の実際　～在宅での小児の胃瘻管理～

（医療法人　小さな診療所　京極新治）

３．小児の気管切開ケア・気管カニュレ交換の実際

（地域医療機能推進機構　九州病院小児科　高橋保彦）

４．在宅人工呼吸器の実際

 （大阪発達総合療育センター　小児科　竹本潔）

５．呼吸リハビリテーションの実際・排痰補助装置の使い方

（東北大学　小児科　田中総一郎）

６．小児在宅医療に於ける診療報酬請求の実際

 （大阪小児科医会在宅小児医療委員会　田中祥介）

７．NICUからの在宅医療　～地域連携を踏まえて～

（倉敷中央病院小児科　総合周産期母子医療センター　渡部晋一）

８．医療が必要な子の当事者支援・レスパイト事業

 （かねはら小児科　金原洋治）

９．在宅小児の医療的ニーズ

 （おがた小児科・内科医院　緒方健一）

１０．病院での短期入所・入院　現状と課題

　　（大阪市立住吉病院　小児科　舟本仁一）

１１．小児在宅医療における手技の実際

 （医療法人財団はるたか会　あおぞら診療所新松戸　前田浩利）

１２．小児科医のための「障害者総合支援法」入門

（能見台こどもクリニック　小林拓也）

１３．摂食と嚥下の発達について　正常と異常

　　（障害児の摂食・嚥下発達の理解）

（光の家療育センター　鈴木郁子）

コラム１．高齢者と小児の医療的ケアの違い

 （医療法人　小さな診療所　京極新治）

コラム２．医師が知っておくべき医療・保健・福祉制度

　　（はせがわ小児科　長谷川功、エバラこどもクリニック　江原伯陽）

コラム３．防災対策

　　（東北大学　小児科　田中総一郎）

コラム４．障害児をみるポイントとコツ

　　（能見台こどもクリニック　小林拓也）

コラム５．小児在宅医療：知ってよかったトップ30

　　（埼玉医科大学総合医療センター　小児科・新生児部門　側島久典）

**Ｂ．実技指導マニュアル**

１．実習総論

（埼玉医科大学総合医療センター　小児科　高田栄子）

２．胃瘻ボタン交換

（三重大学　小児外科　内田恵一）

３．気管カニューレ交換

（地域医療機能推進機構　九州病院小児科　高橋保彦）

４．呼吸リハビリテーション

（東北大学　小児科　田中総一郎）

５．機械的咳介助（MAC）カフマシン

（愛知県心身障害者コロニー中央病院小児神経科　丸山幸一）

６．肺内パーカッションベンチレーター（IPV）

（東北大学　小児科　田中総一郎）

**Ｃ．動画**

１．呼吸リハビリテーション実習風景　wmv：mp4　3分11秒

２．排痰補助装置実習風景　wmv：mp4　 1分44秒

３．経鼻胃管挿入　wmv：mp4 2分15秒

４．防災対策

　　１） 防災対策パワーポイント（動画インストール済み）

　　２） ブルークロス手動式　wmv：mp4　 20秒

　　３） 新鋭足踏式　wmv：mp4　 20秒

　　４） シリンジ吸引方法　 wmv：mp4　 12秒

（東北大学　小児科　田中総一郎）

５．気管カニューレ交換手技実際　wmv　1分20秒

　　気管カニューレ交換手技人形　wmv　26秒

　　　　　（あおぞら診療所ほっこり仙台　田中総一郎）

**８）委員会 研修担当WG委員**

　三浦清邦 （豊田市こども発達センター　小児神経科）

　小沢浩 （島田療育センターはちおうじ　神経小児科）

　田中総一郎　（東北大学　小児科

　　　　　　　　現　あおぞら診療所ほっこり仙台）

　長谷川功 （はせがわ小児科）

　高田栄子 （埼玉医科大学総合医療センター　小児科）